

バイプロサイスによる濃尾平野地下構造調査の実施について

地震による揺れは、マグニチュードや震源からの距離だけでなく、基盤岩の深さと形状及び基盤岩とその上面にある堆積層の地震波伝播速度等が大きく影響していると考えられています。そこで、愛知県では文部科学省の交付金を受けて、平成11年度から濃尾平野地下構造調査を実施しており、平成13年度は下記のとおり濃尾平野南部における東西の測線について、バイブレーターを搭載した大型車を用いてP波反射法地震探査を実施します。

この調査から得られるデータは、地震防災対策を実施していくうえでの貴重な基礎資料となり、今後、被害予測調査や建築物の耐震設計・耐震性調査に活用されます。

記

- 1 名称
濃尾平野地下構造調査（バイプロサイスによるP波反射法地震探査を実施）
- 2 日程
平成14年1月19日（土）から平成14年2月12日（火）まで（予定）
（期間中は取材対応ができないため、取材は下記説明会にてお願いします。）
- 3 場所
濃尾平野南部における東西の測線
- 4 記者説明会
日時 平成14年1月18日（金） 午後1時30分から
場所 名古屋市中小企業振興会館 第4会議室
名古屋市千種区吹上二丁目6番3号
052-735-2111
内容 調査委員会委員の愛知工業大学正木和明教授が調査概要を説明した後、若宮大通でのバイプロサイス発振現場（テスト）に移動し、機器等の説明を行います。発振現場での撮影は可能です。

詳細は、別添資料をご覧ください。

問合せ先	愛知県県民生活部消防防災課地震グループ 松田
	(052-961-2111 内線2520)

濃尾平野地下構造調査について

1. 概要

愛知県では、文部科学省の交付金を受け、濃尾平野の詳細な地震動予測を可能にし、より精度の高い地震の被害想定、建築物の耐震設計・耐震調査などの地震防災に活用するため、濃尾平野における基盤岩上の堆積層の地震波速度並びに基盤岩の深さ、形状および地震波速度など3次元地下構造モデルを把握し、地震の揺れを明らかにする基礎資料を得ることを目的として、平成11、12年度に引き続き、バイプロサイス地下構造調査を実施いたします。（バイプロサイスは、微弱な弾性波信号を地下に送り出し、その信号（弾性波）が地下から返ってくるものを、地震計で検出して、コンピュータ処理を行い、地下構造を明らかにする技術です。）

2. 計画内容

（1）調査地域

愛知県名古屋市昭和区から千種区、中区、中村区、中川区、七宝町、蟹江町、津島市、佐屋町、立田村、岐阜県海津町を経て三重県多度町に至る一般道路で実施します。

（地図については、容量が大きいため、ファイル化しておりません。必要な場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。）

（2）調査方法

調査測線に沿って、12.5m～100m程度の間隔で、バイプロサイス（1～3台を使用）信号を発生させ、約25m間隔で設置した受振器で受振し、地下構造を調査します。

（3）実施時期

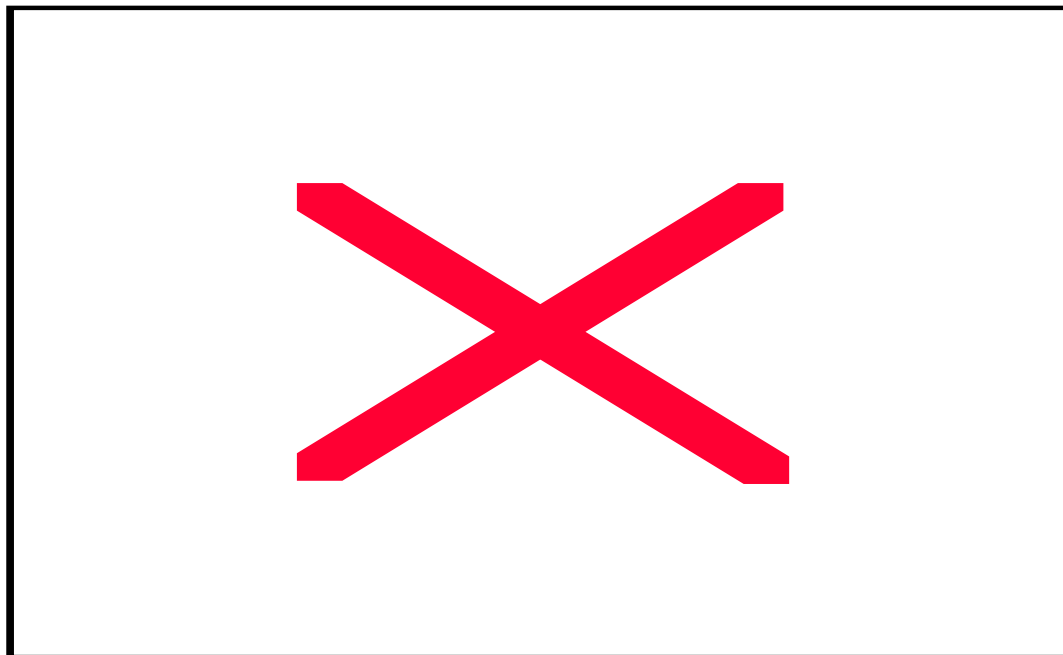
平成14年1月19日（土）から2月12日（火）の昼間（ただし、一部の地点においては1月27日（日）および2月9日（土）の夜間に実施します（バイプロサイス車4台使用））。

問い合わせ先：

愛知県県民生活部消防防災課 地震グループ (TEL 052-961-2111(内2520))

参考

バイプロサイス反射法地震探査概念図



バイプロサイス調査風景

バイプロサイス車 (1台)

全幅 約2.5 m
全長 約8.0 m
全高 約3.3 m
全重量 約18 tonおよび約20ton

大型トラックの段差通過時ほどの振動と、発進時程度の騒音が発生します。

